

# 第1節 豊かな人間性を育む文化の創造

## 文化・芸術

### 前期の主な取り組み

- 川村吾蔵<sup>\*</sup>の業績を後世に伝える川村吾蔵記念館を平成21年度に整備しました。
- 甲冑博物館の建設は中止し、保管・活用は既存施設において行うことにしました。
- 総合文化会館の建設は、平成22年度に実施した住民投票の結果を尊重し中止しました。
- まちじゅう美術館事業では、学校などで開催する移動展を平成20年度から新たに実施しています。
- 市立近代美術館では、平成19年度以降で、290点の美術品を新たに収集・保管しながら年間5回の展覧会で展示しました。
- 佐久にゆかりのある先人の人となりや業績を後世に伝えるため、調査・検討を行う佐久市佐久の先人検討委員会を平成22年度に設置しました。
- 白田町誌の編纂が終了し、全5編を刊行しました。

### 現状と課題

- 市民参加による新たな文化振興の体系づくりを進める必要があります。
- 既存施設の有効活用と活性化を図るため、設備・収蔵品の充実や、連携事業を拡充する必要があります。
- 市民の文化・芸術活動の体制強化を図るため、支援策を検討する必要があります。
- 佐久市佐久の先人検討委員会における調査・審議による成果の公表と、活用方法を検討する必要があります。
- 文化財や歴史・民俗資料の調査及び保護・保存を引き続き進めるとともに、有効活用を図る必要があります。



川村吾蔵記念館

<sup>\*</sup>川村吾蔵(1884~1950): 公共彫刻のほか、乳牛像、著名人の胸像などを制作し、海外で高い評価を得た本市出身の彫塑家。  
<sup>\*</sup>まちじゅう美術館: 市民が身近に美術作品に親しむ空間を提供するため、市立近代美術館の収蔵品を公共施設で展示公開する事業。

### 後期の主な取り組み

#### (1) 文化振興のあり方検討

- 市民参加により、新たな文化振興の体系と方針を示した計画を策定し、市民主体の文化振興施策を推進します。

#### (2) 既存施設の充実と有効活用

- さくぶん連携事業<sup>\*</sup>により、施設の有効活用と企画・情報発信の拡充を図ります。
- 既存施設の特徴を考慮し、連携と役割分担による効率的な運用と、適切な維持管理を図ります。
- 展示を魅力あるものとするため、収蔵品の充実や保全・修復を進めるとともに、展示・保管環境の整備に努めます。

#### (3) 市民の文化・芸術活動の促進

- 文化・芸術団体の自主的な活動と、後継者を育てるための環境整備に努めます。
- 市立近代美術館を作品発表の場として提供し、市民の芸術活動を支援します。

#### (4) 佐久の先人の調査検討と成果の活用

- 佐久の先人検討事業<sup>\*</sup>による調査・検討成果の公表と活用を進めます。

「進行管理の視点」により管理

#### (5) 文化財の保護・継承と有効活用

- 地域の文化財の調査を進め、適切な保護・保存を図ります。
- 貴重な無形文化財を後世に伝えるため、後継者の育成を図ります。
- 文化財への関心を高めるため、講座や体験会などの充実に努めます。

「進行管理の視点」により管理

### 目標

項目(単位)	現状値	目標値
貸し館系施設 <sup>*</sup> の利用件数(件/年)	8,705 [H22]	9,500
観覧系施設 <sup>*</sup> の延べ入館者数(人/年)	38,844 [H22]	40,000
少年考古学教室参加者数(人/年)	67 [H22]	80

<sup>\*</sup>貸し館系施設: 生涯学習センター、コスモホール、交流文化館 浅科  
<sup>\*</sup>観覧系施設: 近代美術館、旧中込学校、五郎兵衛記念館、天来記念館、望月歴史民俗資料館、天体観測施設、鎌倉彫記念館、白田文化センター、川村吾蔵記念館

### チャレンジ!!

文化関連施設が連携して、新たな事業に取り組むことにより、施設の魅力を高め、利用者の増加と文化振興を図ります。  
 (C 新しい仕組みづくりプロジェクト)

「進行管理の視点」により把握

<sup>\*</sup>さくぶん連携事業: 本市の文化関連施設(愛称: さくぶん)間の連携により、共同企画・イベントの実施や、情報の共有・発信を図り、施設の魅力を高めるための事業。  
<sup>\*</sup>佐久の先人検討事業: 本市にゆかりのある先人の業績や人となりを後世に伝えるため、先人の選定や、調査・検討成果の公表や活用などを行う事業。